

江口いと (人権の詩) 2018

江口いと著「人権の詩」から、作品の一部をパネル化して紹介

B2 : 22枚

人の値うち

何時かもんべをはいて
バスに乗ったら
隣座席の人は私を
おばはんと呼んだ

戦時中よくはいたこの活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの
着物と思っているらしい

よそ行きの着物に羽織を着て
汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは
着物で決まるらしい

講演がある
何々大学の先生だと言えば
内容が悪くとも
人々は耳をすませて聴き
良かったと言う
どうやら人の値うちは
肩書で決まるらしい

名も無い人の講演には
人々はそわそわして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは
学歴で決まるらしい

立派な家の娘さんが
部落にお嫁に来る
でも生まれた子供はやっぱり
部落の子だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれた所によって決まるらしい

人々はいつの日
このあやまちに気付くであろうか

江口いとさんの詩には、人の「優しさ」や「生き方」、「偏見・差別を許さない」という強いメッセージと、自然や植物の「たくましさ、美しさ」などが生き生きと綴られており、読む人の感性と価値観を揺さぶります。